

## 医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学附属病院 放射線部では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2021年5月 福島県立医科大学附属病院 放射線部 長澤 陽介

### 【研究課題名】

子宮頸癌に対する強度変調回転照射を用いた中央遮蔽照射の放射線治療計画手法に関する研究

【研究期間】2021年6月 ～ 2022年5月

### 【研究の意義・目的】

子宮頸癌に対する放射線治療では、体の外側から放射線を照射する外部照射と、子宮腔内に挿入した器具の内側から放射線を照射する腔内照射を組み合わせた治療が行われています。日本では外部照射を2つのステップで施行するプロトコルが標準的です。まず、子宮やリンパ節を含む骨盤腔の全体を標的とした全骨盤照射から始まり、途中から骨盤腔の中央部3cm程度の領域を“完全に”遮蔽する中央遮蔽照射に切り替えられます。中央遮蔽照射の役割は、腔内照射で高い線量を照射される可能性が高い直腸や膀胱への線量を低減することであり、日本独自のユニークな治療戦略です。

近年、放射線治療は高精度化が進み、正常臓器のダメージを抑えながら病変部へ集中して放射線を照射することができるようになりました。最近、開発された強度変調回転照射と呼ばれる照射法では、放射線治療装置が患者さんの周りを回転しながら連続的に放射線を照射することで、より短時間での治療が可能となります。しかし、これまでの放射線治療計画の作成方法では、強度変調回転照射法で“完全に”放射線が照射されない領域を指定することは困難であるため、中央遮蔽照射では依然として従来の照射法が用いられてきました。

そこで本研究では、新しく臨床導入された技術を用いて、放射線治療計画を作成することで、強度変調回転照射法を用いた中央遮蔽照射を実現することを目的とします。これにより直腸や膀胱の線量低減を図る中央遮蔽照射の意義を維持しつつ、従来法より小腸や大腸の線量を低減でき、晩期障害リスクを軽減させることが期待されます。

### 【研究の対象となる方】

2016年1月から2022年4月に本学附属病院で放射線治療を受けたⅠ～Ⅱ期の子宮頸癌患者さんを対象とします。

### 【研究の方法】

上記に該当する患者さんのCTを用いて、3種類の放射線治療計画（①従来の照射法、強度変調回転照射の②通常の作成方法、③新技術を用いた作成方法）を作成し、比較することで、強度変調回転照射を用いて、より優れた中央遮蔽照射を実現できるか検証します。

### 【研究組織】

研究責任者

（所属）福島県立医科大学附属病院 放射線部 （職）副主任放射線技師  
（氏名）長澤 陽介

研究分担者

（所属）福島県立医科大学附属病院 放射線部 （職）副主任放射線技師  
（氏名）岡 善隆

(所属) 福島県立医科大学附属病院 放射線部 (職) 副主任放射線技師  
(氏名) 宮岡 裕一

【他の機関等への試料等の提供について】

該当なし

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学附属病院 放射線部 担当 長澤 陽介  
電話:024-547-1594  
E-mail:nagasuke@fmu.ac.jp

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学附属病院 放射線部 担当 長澤 陽介  
電話:024-547-1594  
E-mail:nagasuke@fmu.ac.jp